

SLを通して学んだNPOの重要性

社会福祉学部社会福祉学科 2年 中家 慶二

活動先：NPO 法人 りんりん

クラス：原田 正樹 先生

1. SLを通しての自分の成長・気づき

私は一年間 SL の活動を通して、様々な自分の成長や気づきを実感することができた。私自身、NPO について考えたり学ぶことは初めての経験だった。今まででも福祉=NPO という印象がなかったのも事実である。しかし、SL での活動を通して、NPO についてや地域とのつながりについても触れることができたのである。

活動を通しての自分の成長や気づきとしては、活動前と活動後の自分の考え方(捉え方)である。活動前では、自分たちの企画を成功させることに力を入れすぎていた。去年の先輩方の企画がとても素晴らしかったことを聞き、自分たちの企画が先輩方に劣らないようにと取り組んだのである。今考えると、企画に専念することは悪いことではなかったが、もっと活動先の様子や活動内容などを把握したり学んだりすることができたのだと感じる。ここから言えるように、活動前は NPO (活動先) についてあまり考えていなかったのかもしれない。しかし、活動後になると、活動が終わったことももちろんあるが、NPO という存在や役割について、地域との関わり方・つながりについても考えられるようになったのである。というのも、夏休みの NPO での活動を通して、NPO の取り組み・地域との協調などを学べたからである。もちろん、自分たちの企画も全力で取り組んだが、それ以上に活動先で学んだこと・得たことが大きかったのである。活動後は特にまとめの時間が多かったため、NPO についてや地域とのつながりといった、NPO のより深いところまで考えることができた。このまとめの時間を上手く使いながら、より NPO について深く探ることができ、自分の考え方も変わったのであろう。また、SL を通して NPO について知ることができ、NPO 論という授業にも関心を持ちながら受講することができた。地元の NPO などを街中で見かけると、以前では気にしなかったものが目に留まるようになってきた。そこから、活動について知りたいという興味も出てくるようになったのである。

そして、自分の成長や気づきの中で私が一番感じたのは、SL の初めの授業で考えた「私たちの考える NPO」についてである。活動する前は、NPO について全く知識・情報がなく、自分のイメージで NPO を作り上げていた。おそらく、他の人たちも同じはずである。その時の NPO のイメージで強かったものが「非営利」であった。利益を求めず、福祉事業を通して人助けをしているという考えであり、この意見はみんなが考えているものであった。しかし、活動を終えてみると、「非営利」という言葉についてはあまり考えなくなり、もっと大事に思えた「地域」「助け合い」が私の NPO のイメージが変わったのである。これは、活動先での取り組みが地域とのつながり・助け合いから成り立っているのだと感じたからである。活動先であるりんりんでは、様々な地域に向けた事業に取り組んでいたため、より地域とのつながりを感じることができた。活動前に考えていた NPO と活動後に考えた NPO の違いでは、自分の NPO に対する捉え方が一番はっきりと分かるものとなった。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私が活動をさせて頂いたりんりんでは、様々な形の地域活動に取り組んでいた。地域に支えられていることで、NPO も成り立っている。地域とのつながりがいかに大切になってくるのかが見えてくるであろう。

私の活動先であったりんりんでは、「りんりん茶屋」という喫茶店を開いている。ここでは、地域の人が気軽に利用できる喫茶店として、特に年配の方に好まれている。喫茶店を通して、ふれあいの場や事業（デイサービス・学童保育）の活用にもつながっている。そのため、もっと多くの世代の方に利用してもらうことが事業の発展にも関わってくるのだと考える。次に、事業の一つとして活動されている「地域ふれあい事業」である。この事業では、絵手紙教室やさりを織り教室、生き活きサロン・サロン市などの活動を通して、生きがいきり・仲間づくり・居場所づくりにもなっているのである。教室では、小物や絵手紙といったものを教わりながら自分で作って楽しみ、趣味を共有できる場でもある。また、生き活きサロンでは、週2回ほど週で変わるシェフ（料理をしたい方）が料理を作り、地域の方に食べてもらっている。毎週色々な料理を食べることができ、料理をしたい方のきっかけづくりにもなっている。サロン市では、手作り惣菜や野菜、お菓子や手芸品などの自分の手作りの作品に売値をつけて販売でき、地域の方にとっても喜ばれている。この活動により、地域の人たちが交流できる場にもなり、生きがいや仲間、仕事づくりにもなっているのである。

次は、りんりんの作りに注目したい。りんりんでは、デイサービスと学童保育が隣接しているのが特徴である。このような配置にすることで、高齢者と子どもたちが交流しやすくなっている。活動中にも感じたが、高齢者の方は子ども達が元気に遊んでいる姿を見ることが楽しみの一つでもある。高齢者の方から見ると、子ども達は孫のようで可愛いと思えるのである。子ども達から見ても高齢者と交流することで、自分のおじいちゃんやおばあちゃんの接し方などを考えることができるかもしれない。そのためにも、より交流できる機会を設けることが必要になる。

これらのように、りんりんでは地域に向けて様々な地域活動・社会活動を行っている。地域について考えることで、りんりんと地域がつながることができ、何より安心したまちづくりのきっかけにもなる。これは、りんりんが掲げている「安心して暮らせるまちづくりを目指し、困ったときはお互いさまと助け合う市民活動団体」という理念に合うものである。さらに、地域とのつながりを求めることで、NPO の取り組みについても理解されるのではと考える。そのためにも、若者に NPO の存在を知ってもらうように、企画やイベントを考えるのも一つの取り組みであるだろう。

3. 最後に…

SL を通して、NPO の重要性について学んだ。NPO が存在することで、地域の暮らしや地域福祉にも影響を与えることができると考えた。私たち住民は、NPO に関わることで、地域とのつながり・多世代交流が増えるのではないだろうか。私自身も、自分の地域の NPO について考え、関わりをもつことで何かのきっかけになるのではないかと考えている。